

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	<small>たのうちつたてせん</small> 田野内杖立線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	美馬市(旧穴吹町・木屋平村)																	
事業概要	【目的】 当路線は、美馬市の中央部の正善山東斜面一帯の広大な人工林地帯に位置し、森林整備を行う上での基盤となる施設を整備するもので、森林の有する多面的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的としている。また、穴吹川沿いの国道492号の上部に平行して位置することから、災害時の迂回路として、また集落の孤立を防ぐための路線としての役割も担う。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">1,331ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:1,077ha (81%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>501戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>3.5～4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>19,850m</td> <td>(うち平成25年度末の供用予定延長 10,831m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>4,946,380千円</td> <td>(うち平成25年度末の実施予定事業費 2,998,128千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成5年度～平成35年度</td> <td>(31年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,331ha	[人工林面積:1,077ha (81%)]	受益戸数(森林所有者数)	501戸		幅員	3.5～4.0m		計画延長	19,850m	(うち平成25年度末の供用予定延長 10,831m)	総事業費	4,946,380千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 2,998,128千円)	事業予定期間	平成5年度～平成35年度
利用区域面積	1,331ha	[人工林面積:1,077ha (81%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	501戸																			
幅員	3.5～4.0m																			
計画延長	19,850m	(うち平成25年度末の供用予定延長 10,831m)																		
総事業費	4,946,380千円	(うち平成25年度末の実施予定事業費 2,998,128千円)																		
事業予定期間	平成5年度～平成35年度	(31年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 当路線は平成5年に着工し、起点側の穴吹工区4, 300m、中間の檜原工区2, 044m、終点側の杖立工区4, 487mが供用を開始しており、平成25年度末で進捗率55%となっている。 長引く公共事業費の縮減と地形条件(急峻な地形と脆弱な地質)による事業費の増大に加え杖立工区においては平成23年度より境界問題から事業の休止を余儀なくされており、進捗が低下している。 <div style="text-align: right;">[進捗率:54.6%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当路線には5路線の林道が整備され路網のネットワーク化が構築されるとともに、林業飛躍プロジェクトによる間伐システムが展開されており、今後も麻衣地区を中心に「次世代林業プロジェクト」による低コストで効果的な搬出間伐等の施業が行われる見込みである。特に、麻衣地区においては、森林経営計画が認定され搬出間伐の計画がされている。平成21年度から平成24年度までに延べ210haの森林整備を実施している。																			
	【社会経済情勢の変化】 ・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。 ・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。 ・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。 ・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。 このような背景の中、当市内林業従事者は高性能林業機械を追加購入し、積極的に森林施業に取り組んでいる。																			
【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 なし																				
【事業効果の発現状況】 供用開始した区間を利用して、平成5年度から平成24年度までに、延べ502haの森林整備を実施している。また、供用区間が増加するに伴い、「次世代林業プロジェクト」によりさらなる森林の整備や保全のための施業が計画されている。特に、麻衣地区においては、森林経営計画が認定され搬出間伐計画がなされている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.2 (国の採択基準は1.0以上)</div>																				
【受益者・関係機関の意向】 適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道にも接続しており、災害等緊急時の迂回路として利用できることから地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。																				
【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																				